

地図と地球儀を見ながら 『風野又三郎』を読んでみよう！（前編）

京都薬科大学 名誉教授 桜井 弘

わが国の人々は、昔から夏から秋にかけて現れる台風により、しばしば米の収穫ができなかったり、時には川が氾濫して家々が流されたり死者が出るなど、大きな被害を経験してきました。そこで人々は、立春から数えて210日目を二百十日、220日目を二百二十日、旧暦八月一日を八朔はつさくと呼びならわし、農家の三大厄日やくびとしてきました。例年であれば、9月1日、10日および17日をそれぞれ二百十日、二百二十日および八朔とよび、特に警戒してきました。

和辻哲郎の「風土」、夏目漱石の小説「二百十日」、与謝野晶子の短編「台風」や宮沢賢治の童話「風の又三郎」などでは、台風への人々の思いが描かれて、読まれた皆さんも多いことと思います。これらの中で、時に面白いのは「風の又三郎」（1933年）¹⁾ですが、この童話よりも先に書かれた『風野又三郎』（1924年）（写真1）²⁾はサイエンスフィクションのおもしろいので、童話の内容に沿って地図と地球儀を見ながら紹介したいと思います。竜巻、台風、いたずら風や大気の上での循環など、わくわくするお話です。

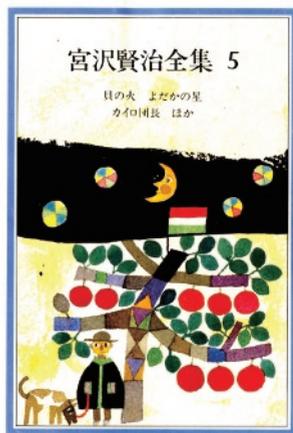


写真1. 『宮沢賢治全集5』

9月1日(月)(又三郎と子どもたちの出会い)

谷川の岸にある小さな学校では、20人の小学生が学んでいます。この日の朝は青空で風がどうと鳴り、突然、ねずみ色のマントを着て、水晶かガラスのすきとおった杓しやくを履いた赤い髪、リンゴのような赤い頬ほおとまん円で真黒な眼をした子どもが現れ、教室の一番前の机に座っています。さあ大変、子どもたちは驚き、泣いたりします。この日は、二百十日です。夏休みが終わり、今日から新学期が始まります。

9月2日(火)(「風の三郎」伝説が現れる)

6年生の一郎と5年生の耕一は、午後の授業を終えて丘の上の栗の木まで行く

と、昨日の子どもが来ています。一郎が「^{うな}汝^{たれ}あ誰だ。何だ^{うな}汝あ。」という、その子は「風野又三郎」と自己紹介します。一郎と耕一は「あゝ風の又三郎だ。」と思わず叫びます。この「風の又三郎」こそ、東北や関東地方でよく知られた「風の精 風の三郎」伝説の主人公なのです。³⁾ 岩手山から今日ここ(花巻)へ飛んできた、岩手山での出来事を説明するのです。風の精を擬人化した又三郎の言葉と行動を追っかけてみましょう。

9月3日(水)(又三郎のメッセージ)

午後、子どもたちが丘に駆け上がると、又三郎が現れ、去年の経験を話してやります。九州から東京へ飛んで、花巻をとおり盛岡の高洞山を越えて海へ出たといいます(地図1)。そこで、子どもたちが空を飛ぶ又三郎を「ほう、いいなあ、又三郎さんだちはいいなあ。」と言うと、又三郎は少し怒りました。

「お前たちはだめだねえ。なぜ人のことをうらやましがるんだい。僕だってつらいことはいくらもあるんだい。お前たちにもいいことはたくさんあるんだい。僕は自分のことを一向考へもしないで人のことばかりうらやんだり馬鹿^{ばか}にしてゐるやつらを一番いやなんだぜ。僕たちの方ではね、自分を外のもの^{ほか}のとくらべることが一番はづかしいことになっているんだ。僕たちはみんな一人一人なんだよ。」一郎がそこで云いました。「又三郎さん。おらはお前をうらやましがったんでないよ、お前をほめたんだ。おらはいつでも先生から習ってゐるんだ。(中略)お前もさう怒らなくてもいい。」

童話の中で、賢治は子どもたちに一人一人が大事だよと力強いメッセージを送っています。

9月4日(木)(サイクルホールの話)

「サイクルホールの話聞かせてやろうか。」と又三郎が急に現れ、「サイクルホールは面白い。」と言います。「サイクルホール」は賢治が作った言葉で、低気圧によってできる竜巻や台風を指しているようです。

「…小さなサイクルホールなら僕たちたった一人でも出来る。くるくるまはって走



地図1. 又三郎の飛行

れあいからね。さうすれば木の葉や何かマントにからまって、丁度うまい工合が
 まいたちになるんだ。ところが大きなサイクルホールはとても一人ぢや出来あしな
 い。小さいのなら十人ぐらゐ。大きなやつなら大人もはひって千人だってあるんだ
 よ。(中略)南の方の海から起って、だんだんこっちにやってくる時、一寸僕等がは
 ひるだけなんだ。ふうと馳けて行って十ぺんばかりまはったと思ふと、もうずっと上
 の方へのぼって行って、みんなゆっくり
 歩きながら笑ってゐるんだ。「急げば急
 ぐほど右へまがるよ、尤もそれでサイク
 ルホールになるんだよ。」

サイクルホールの作り方や進路を詳しく
 説明します。甲州で発生させて、八ヶ岳か
 ら富士川を通り東京へと走る竜巻です(地
 図2)。先にでてきた、「かまいたち」は突
 然、皮膚がさけて鋭い鎌で切ったような切
 り傷ができる現象のことで、昔は目に見え
 ないイタチのしわざと考えられていたよう
 です。



地図2. サイクルホールの進路

また、「日詰の近くに源五沼といふ沼があったんだ。そのすぐ隣りの草はらで、僕
 等は五人でサイクルホールをやった。ぐるぐるひどくまはっていたら、まるで木も折
 れるくらゐ烈しくなってしまった。丁度雨も降るばかりのところだった。一人の僕の
 友だちがね、沼を通る時、たうたう機みで水を掬っちゃったんだ。さあ僕等はもう黒

星の輝きで伝えることがある
 五藤光学研究所 ■ 全天候デジタル配給作品

GOTO

まだ見ぬ **宇宙へ**

五藤光学研究所
<https://www.goto.co.jp/>

企画：大阪市立科学館
 ©「まだ見ぬ宇宙へ」製作委員会

雲の中に突き入ってまはって馳^かけたねえ、水が丁度漏斗^{じょうご}の尻^{しり}のやうになって来るんだ。」と言い、人々が「竜だ」と叫んだそうです。確かに、竜巻は漏斗を細長くしたような形ですね。

それから「逆サイクルホール」もあると言う。「高いところから、さっきの逆をまはっておいてくる」ことから、高気圧を指しています。北の「タスカロラ海床(海淵)」の上に逆サイクルホールができ、中国の揚子江の野原でサイクルホールができ、この二つが日本でぶつかると、そこで梅雨になるよと説明します(地図3)。



地図3. サイクルホールと逆サイクルホールの衝突

(続く)

[参考文献とノート]

- 1) 宮沢賢治絵童話集⑫『風の又三郎』、監修 天沢退二郎・萩野昌好、くもん出版(1993)。
- 2) 『宮沢賢治全集5』、ちくま文庫(1996)。321～373頁に『風野又三郎』が掲載されている。
- 3) 風の三郎伝説は、東北や北陸、山陰、中部の山岳地帯で、いずれも二百十日などの風水害から農作物を守り、五穀豊穡を願う信仰である。八ヶ岳山麓の伝説は、賢治が盛岡高等農林学校時代の友人保坂嘉内から聞いたようだ。

桜井 弘

KONICA MINOLTA

私たちは「宇宙」を作っている会社です。

— プラネタリウム生誕100周年 —

最新の光学・デジタル プラネタリウム機器の開発・製造から、独自の番組企画・制作・運営ノウハウに至るまで、プラネタリウムという“スペース”の可能性を追求し続けてまいります。

コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

本社・東京事業所 〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-3 TEL.(03)5985-1711
 大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 TEL.(06)6110-0570
 東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL.(0533)89-3570
 URL: <http://www.konicaminolta.jp/planetarium/>

画像：大阪市立科学館